記念撮影する参加者

下松

コロナ収束見据え活動再開へ

下松ジュニアソフトテニスクラブ　創立25周年感謝の集い

下松市の下松ジュニアソフトテニスクラブ（原田正剛会長、41人）の創立25周年感謝の集いが8月30日、東豊井の恋ケ浜緑地庭球場で開かれた。今年度は新型コロナウイルスの感染症対策でほとんど練習ができなかった中、久しぶりに再会した選手たちが親子でプレーするなどゲームを楽しんだ。

同クラブは１９９５年、東ソー社員で全日本実業団リーグで優勝経験を持つ水本隆行監督（59）や、南花岡の原田歯科医院院長の原田会長（73）を中心に結成した。

２００１年まで30人台だった会員数が以後は増加に転じ、15年には全日本小学生ソフトテニス選手権大会の個人戦で同クラブの武市大輝・小松隼士ペアが優勝して〝日本一〟の座に登り詰めた。

5年前の20周年の時には武市・小松ペアの全国優勝の祝賀会を兼ねた盛大な記念式典をほしらんどくだまつで開いたが、今回はコロナ対策のため屋外で開く形にして来賓の招待も自粛し、選手と保護者、コーチのみの計１００人で開いた。

コロナ対策のため全員のマスク着用や、手指のこまめな消毒を徹底。参加者は親子でペアを組んだり、普段とは違う選手同士でペアを組んでプレーをして歓声を上げた。かき氷やフルーツポンチが振る舞われ、ラケットやボール、タオルなどが当たるじゃんけん大会も盛り上がった。

記念撮影では保護者手づくりの横断幕が登場し、水本監督の指示で撮影時だけマスクを外した。主将の花岡小6年、田中凛旺（りお）君（12）は「コロナでなかなか練習ができなくて残念。全国大会があれば出場できるように頑張りたい」と話していた。

原田会長は「最初のころの子どもたちは親になって、その子どもが入会するケースが増えてきた」と感慨深そう。水本監督は「あっという間の25年だった。コロナの収束を見極めながら仕切り直しをして、全国大会を目指して指導したい」と目標を話していた。